

人の意を思いつくが自分の
成績をほめたいのでは
±びしい 自分の力、技を
上げる。

《コーチング観・選手観・試合観など》

・ゲームを楽しむという性格をもつ者。

選手、指導者ともゲームを楽しむという観点から入って行かなければ最終的には本当の意味で強い選手にはなれない。

・試合を自ら待ち望む。そういう試合であれば楽しいもの。コーチでも早く試合が来ないかと思うもの。

・本当にゲームを楽しめる者は、それだけ余裕のある態度で構えている事ができる。したがって、競技前半で失敗演技があっても必ず後半取り戻してくる。逆に相手にプレッシャーをかけていく事にもなり、徐々に崩れて行くことが多い。

・選手に先見の目を持たせることが必要。

どの試合にポイントをおくのかなどをコーチと話し合う必要がある。

・J Oに(10才以下)が追加されることについて。

大賛成である。世界のトップを作っていくことをするならば、中学・高校では遅すぎると感じる。実際に中国が7才くらいから選手育成に取り組んでいる事は、誰でも知っている。日本も10才以下にもっと目を向けて行かなければならない。素質のある子供を他の競技にもって行かれなくするためにも。

はっきりいって世界エイジの種目に合わせる事はない。強化の立場から言えば13才でどうであろうと重要ではない。13才を過ぎてから強くなって行けば良いのであって、こだわる必要はない。

・選手育成の方法、場所なども完全でないところが多い。施設などを満たして欲しい。でないと地盤の強いところしか選手は出てこないということになるからだ。これこそ、日本の飛び込み関係者が取り組んで行かなければならない点である。この時期の指導などが充実したものであれば他の競技への選手流出は防げる。また、日本の飛び込みが必ず強くなるはずである。日本が世界と対等にいやそれ

以上に競技することのできる選手を作って行けるはずである。

・ホビー・ピリングスレイ氏は世界チャンピオンをつくる条件として次の四つを上げていた。

①選手・・・

②コーチ・・・

③環境・・・天候、人数、練習可能日、教室の開催など

④施設・・・プール、トランポリン、体育館など

以上の四つの要素がダイビングを成り立たせている。

特に重要な要素はコーチである。コーチは施設や環境を変えることができるし、良い選手をみつけて来ることにもできる。選手がコーチを探すことはできない。

・選手をつくるということは、「ある」ところから始まるのではなく「ない」ところから始まるものであると思う。ないものを作り上げて行くことが大切。（選手を、強化組織を、施設を、協力者を・・・など）

・「できない」ではなくて必ずできるという気持ちをもつことが大切で、いまは無理でもいつか必ずできるようになるという気持ち。「できる」ようにする為にはどうしたら良いのか。これがスタートである。そういうことを、考えて行くことによって強化方針とか練習方法などが決まってくる。また、選手が見えてくる。